

浮世絵と描かれた江東④

描かれた江東の橋・川

江東区深川江戸資料館

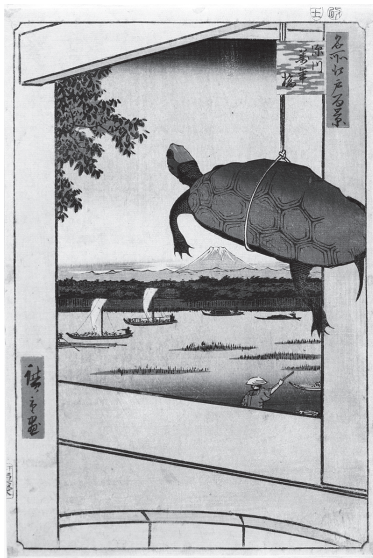
浮世絵とは、江戸時代に発展した絵画のことで、「浮世」すなわち当世の風俗を題材に描かれているものを指します。特に多く描かれたジャンルは、美人画と役者絵、そして名所絵（風景画）です。

江東地域は、掘割・運河が縦横に張り巡らされ、橋の数は東京で最も多いと言われています。これらの橋と川から望む水辺の景色は多くの人々を魅了し、様々な浮世絵の題材として描かれました。

本号では、浮世絵に描かれた江東地域の名所の中から、橋と川について紹介していきます。

1. 万年橋

万年橋は、小名木川の隅田川口に架けられた橋です。富士山が見える名所でもあり、歌川広重（図1）のほかにも、葛飾北斎など名だたる絵師が作品の題材に取り上げました。橋の北側には寛文元



年（1661）まで川（図1）歌川広重「名所江戸百景 深川万年橋」安政4年（1857）船番所があったた 江東区深川図書館蔵

め「元番所橋」とも呼ばれています。万年橋のように小名木川に架かる橋は、船の運航を妨げないように高く架けられているのが特徴です。

さて、図1に描かれている亀をよく見ると、橋の上に置かれた手桶に紐でぶら下げられていることがわかります。これは、捕獲した生き物を野に放してやることで殺生を戒める「放生会^{ほうじょうえ}」という儀式から派生し

たものです。動物は亀だけではなく、魚、鳥などが、こういった橋のたもとや池の端で売られていました。

2. 永代橋

元禄11年（1698）に架橋された永代橋は、当時、現在の位置から約100m上流にあり、5年前に架けられた新大橋と並んで深川の発展に大きく寄与しました。橋上の眺めも大変よく、富士山や筑波、箱根も遠望できる江戸一の大橋として知られており、赤穂義士が本所の吉良邸から泉岳寺へ向かう際に渡った橋としても有名です。

人々に愛された永代橋でしたが、文化4年（1807）の富岡八幡宮礼祭の折、押し寄せた人々の重さに耐えられず落橋、1,500人～2,000人が命を落とすという大惨事が起きました。明治期に入り永代橋は現在地に移転しますが、関東大震災により大破します。

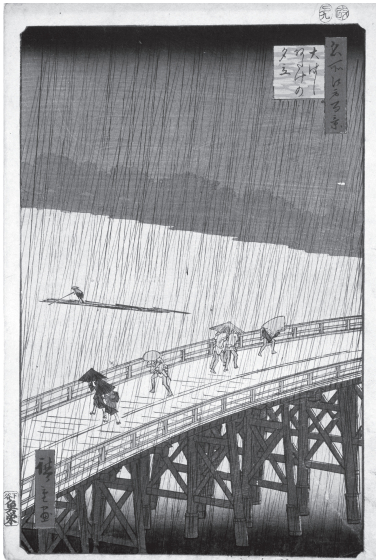
その後、永代橋は震災復興事業第1号として現在の姿に生まれ変わり、平成19年（2007）に国の重要文化財の指定を受けました。



現在の永代橋

3. 新大橋

「大橋」という橋がすでに別の場所に架けられていたことから「新大橋」と名付けられたこの橋は、元禄6年（1693）、隅田川にかかる3番目の橋として架橋



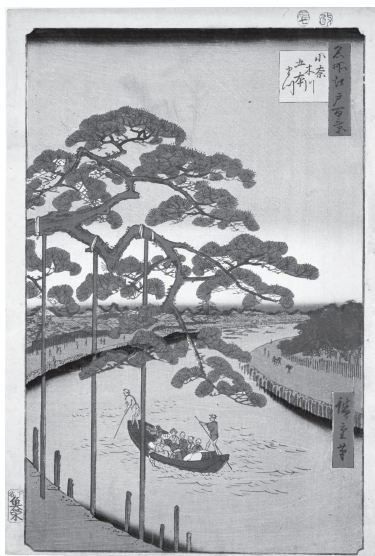
(図2) 歌川広重「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」安政4年(1857) 国立国会図書館蔵

摺られており、非常に激しい雨であることが見事に表現されています。この作品は、ゴッホが模写したことでも有名です。「大はしあたけ」の「あたけ」とは、幕府の御用船「安宅丸」があったことから由来する地名のことです。安宅丸は和洋折衷の構造を持つ、巨大かつ豪華な船でしたが、ほとんど使われず、また維持費が非常にかかることから、天和2年(1682)に解体されてしまいました。

4. 小名木川

小名木川は、天正18年(1590)に徳川家康の江戸入府とほぼ同時期に開削された江東区を代表する川です。行徳方面(千葉県市川市)の塩などを運ぶために作られたと伝えられており、開削以前のだいたいの海岸線とも言われています。

図3は現在の猿江2丁目付近を描いた作品です。絵の左部から伸びた添え木で支



(図3) 歌川広重「名所江戸百景 小奈木川五本まつ」安政3年(1856) 江東区教育委員会蔵

されました。

図2は、突然降り出した夕立の中、傘や笠、むしろなどで雨を除けながら橋を渡る人々のほか、蓑をつけた筏師が川を下っていく様子が描かれています。降り注ぐ雨の斜線は角度と濃さが異なる2種類の線が重ねて

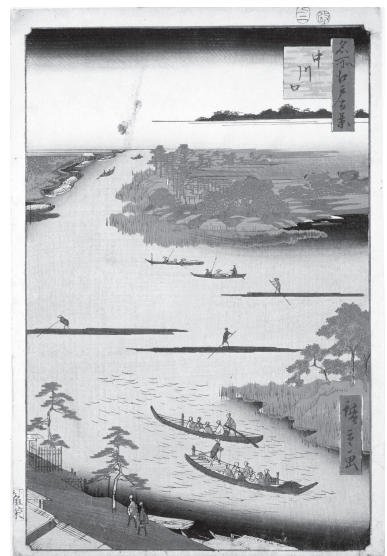
えられた松の木は、丹波国(京都府)綾部藩九鬼家の下屋敷に生えていたもので、「江戸名所図会」によると「枝は塀を越して道を覆い、水面にまで届いた」とあります。

この松は明治40年(1907)までありましたが、工場の煤煙や洪水などにより枯れ、同42年(1909)に切り倒されてしまいました。

5. 中川

中川は、東方の江戸川と西方の隅田川の「中」を流れていることから、この名前で呼ばれるようになりました。中川口は、中川と小名木川が交差する場所のことを指します。

図4では中川、小名木川、新川の3つの川が交差し



(図4) 歌川広重「名所江戸百景 中川口」安政4年(1857) 江東区教育委員会蔵

ている雄大な風景が描かれています。図の左下に見える柵は当時の「中川番所」です。中川番所は、寛文元年(1661)に小名木川の西橋にあった深川番所が移転したもので、主な任務は、女性、けが人、囚人の通行の取締り、鉄砲などの武器や江戸へ運ばれる物資の検査をすることでした。

現在、この中川番所があった場所から少し北へ向かったところに「江東区中川船番所資料館」が建っており、江東区の水辺の歴史を紹介するほか、様々な郷土資料を展示しています。

【主な参考文献】

江東区『江東事典(史跡編)』(江東区総務部広報課/1992年)

川田壽『続江戸名所図会を読む』(東京堂出版/1995年)

太田記念美術館監修『広重 江戸名所百景』(株式会社美術出版社/2017年) ほか